

関っ子だより



平成30年9月4日(火)
亀山市立関小学校
文責:校長

6月の地区集会でもお話ししましたが、4月17日(火)に全国学力・学習状況調査が実施され、本校では、実施後、速やかに全教職員で答案を採点し、1学期の指導にいかしてきました。

この度、文部科学省から調査結果が送付されてきましたので、再度全教職員で結果を分析しました。たいへん厳しい結果でしたが、今後も、下記の手だてを全教職員で共有し、取り組みをさらに強化していきます。



国語A

- ▲目的に応じて、必要な情報を捉える力が不足している。
- ▲慣用句の意味の使い方が苦手。語彙力に課題が残る。
- ▲複数の叙述と関係付け、暗示的に表現されている登場人物の心情を捉えることを苦手としている。

国語B

- ▲条件を決められている問題では、限られた字数の中に意見や考えをおさめることを苦手としている。
- ▲要点をしぼって読み取る力が不足している。

【手立て】

- ☆全員に同じ物語や本を読ませる。語彙や慣用句の指導につなげる。
- また、使わせたい・身につけさせたい語彙や慣用句などを教室に掲示する。
- ☆字数や条件をつけた作文指導を行う。
- ☆文章を全体でとらえて読み解く経験を増やす。
- ☆子どもの発言や作文の書き方など、普段から文の構成に気をつけて指導する。

算数A

- パターン化されている教科書に近い問題はよくできている。
- 具体的なものが問題中に描かれているとよくできる。
- ▲数直線や図のイメージをつかむことに課題が残る。
- ▲問題文に小数が絡んでくると苦手意識をもってしまう。
- ▲式の変換に課題が残る。

算数B

- 表やグラフなど一つの情報から書かれていることを読み取ることはできている。
- ▲問題に応じて線分図に表したり、数値を当てはめて読み取ったりすることに課題が残る。
- ▲複数の意味の違うグラフ(人数と割合)の読みとりを苦手としている。
- ▲問題や図などからきまりを見つけ、見つけたことを例にならって文に表すことを苦手としている。

【手立て】

- ☆低学年から場面の状況を図に書く練習を重ねていく。
- まずは図の書き方を知ることから始め、自分で書き、説明し、立式できるように指導していく。
- ☆聞かれていることに対して、どのグラフが必要か見極める力をつける。
- ☆資料やグラフの活用に関しては、国語科や社会科でも行うので、他教科でもグラフを読み取ったり、2つのグラフの関連性を文に表したりするなどの取り組みを行う。
- ☆文や図から必要な情報だけを抜き取り、わかっていること、聞かれていることを整理する力をつける。
- ☆和差積商、倍などの算数言葉をしっかり定着させる。

理科

- 5年の物質・エネルギーの学習内容はよく定着している。
- ▲4年の学習内容を忘れている児童がいる。（身体の部分の名前・電流の向き）
- ▲理科用語（堆積・運搬など）の正しい理解・区別が不足している。
- ▲問題の意図を読み取り、論理的に考え、必要な情報を取捨選択することを苦手としている。
- ▲生命・地球の分野に課題が残る。

【手立て】

- ☆定期的なふりかえりと、同分野の既習内容を確認して単元に入ることによって定着させていく。
- ☆児童が課題・問いに沿って論理的に考えられるようにする。
- ☆要点を正しく読み取り、それにあった答え方ができるように、ふりかえり等の書く活動を工夫していく。

児童質問紙より

【自分自身について】

- ▲自分によいところがあるという質問についての肯定的意見は三重県や全国と同等だが、「当てはまる」と答えた児童は三重県・全国より－10%であり、自分のよさに自信を持ってない児童がいる。
- 将来の夢や目標を持っている児童が三重県や全国に比べて少ない（－18%）。
- 家庭で学校であった出来事について話す児童が少ない。

【生活習慣について】

- 「早寝・早起き・朝ご飯」については、ほぼ身につけている。
- 放課後や週末に、テレビ・ゲーム・インターネットなどを行っている児童の割合が90%近くいる。

【家庭学習について】

- 新聞を読んだり、テレビやインターネットなどのニュースを見たりする児童が多い。
- ▲平日に読書をしている児童は多いが、週末に読書をしている児童は少ない。
- 自分で計画を立てて勉強することを苦手としている。
- 平日の家庭学習については、30分～1時間以内と答えた児童が多い（三重県や全国では、1時間以上学習している児童が50%以上いる）。復習・予習をしている子の割合は、三重県・全国に比べて低い。

【算数の学習について】

- あきらめずに問題を解こうとする児童は多い。
- 新しい問題に出会ったときに、解いてみたいと思う児童が少ない。また、問題の解き方や考え方を分けるようにノートに書く児童も少ない。
- 新しく習った公式やきまりのわけを理解しようとする児童が少ない。
- 算数や理科で学んだことを普段の生活のなかで活用できるかどうか考える児童は少ない。

【理科の学習について】

- 友だちの前で自分の考えや意見を発表することに苦手意識がある。
- 予想をもとに観察や実験の計画を立てたり、結果から分かったことを考えたりすることに課題が残る。
- 授業で、自ら課題を立て、自ら考え、取り組んでいなかったと否定的に答えた割合が多い。

【家族・地域での様子】

- 放課後は、放課後子ども教室や学童で過ごす児童、家族と一緒に過ごす児童が多い。
- ▲地域の行事には積極的に参加している児童が多い。しかし、その一方で地域や社会で起こっている出来事について興味関心を持っている、よりよくしたいと思っている児童は少ない。



今後も、様々な場面で、子どもたちが「できた。」「わかった。」体験を多く積むことで、一人ひとりの自己肯定感を高めていきたいと考えています。ご家庭でもご協力をお願いします。